

くまさんだより

日本基督教団 豊橋東田教会
〒440-0055 愛知県豊橋市前畑町 112 ☎0532-54-3435
公式サイト <https://azumada.org/> 武井恵一牧師 080-3428-3200

2020年
4月号

4月19日発行

イラストは全て池谷陽子さんご提供

4月12日 復活節第一主日礼拝説教

「キリストの復活」武井 恵一牧師

コリントの信徒への手紙一15章1節～11節 新約聖書320頁



コリントの信徒への手紙一15章1節～11節

1兄弟たち、わたしがあなたがたに告げ知らせた福音を、ここでもう一度知らせます。これは、あなたがたが受け入れ、生活のよりどころとしている福音にほかなりません。2どんな言葉でわたしが福音を告げ知らせたか、しっかり覚えていれば、あなたがたはこの福音によって救われます。さもないと、あなたがたが信じたこと自体が、無駄になってしまうでしょう。3最も大切なこととしてわたしがあなたがたに伝えたのは、わたしも受けたものです。すなわち、キリストが、聖書に書いてあるとおりのわたしたちの罪のために死んだこと、4葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおりの三日目に復活したこと、5ケファに現れ、その後十二人に現れたことです。6次いで、五百人以上もの兄弟たちに同時に現れました。そのうちの何人かは既に眠りについたにしろ、大部分は今なお生き残っています。7次いで、ヤコブに現れ、その後すべての使徒に現れ、8そして最後に、月足らずで生まれたようなわたしにも現れました。9わたしは、神の教会を迫害したのですから、使徒たちの中でもいちばん小さな者であり、使徒と呼ばれる値打ちのない者です。10神の恵みによって今日のわたしがあるのです。そして、わたしに与えられた神の恵みは無駄にならず、わたしは他のすべての使徒よりずっと多く働きました。しかし、働いたのは、実はわたしではなく、わたしと共にある神の恵みなのです。11とにかく、わたしにしても彼らにしても、このように宣べ伝えているのですし、あなたがたはこのように信じたのでした。

1節で「兄弟たち」と呼びかけています。これは、遠く離れている距離ばかりでなく、長い年月を隔てて、パウロが今日この時、このわたし達に呼びかけている言葉です。

パウロは、福音において「これこそ、何よりも大切な言葉、あなたがたが受け止めなければ、あなた方が存在していることが消えてしまう言葉」として、わたし達に呼びかけています。パウロは自分のすべてをかけて、心を込めて福音において「最も大切なこと」を呼びかけています。



2節～3節で、「最も大切なこととしてわたしがあなたがたに伝えた」のは、キリストが「わたしたちの罪のために死んだこと」「葬られたこと」「三日目に復活したこと」と、明言し、パウロが宣べ伝えていた内容が簡潔に表されています。そして、キリストの復活とは、どのように起こったかを、当時実際に体験した者の名前をあげ、歴史的事実であったことを記しています。

使徒たちとそれに続く者が、くつがえしようない事実として復活の出来事を体験し、それを証する者として、宣べ伝えました。

以前、この箇所を取り上げた際は、復活の証言者が五百人以上にもものぼったことを話しました。今日は、パウロに焦点をあててまいります。

パウロは、「復活の主」が「最後に…わたしにも現れました」と書いています。パウロは、自分には、「神の教会を迫害した」「使徒たちの中でもない者」「使徒と呼ばれる値打ちのない者」であるにもかかわらず、「復活の主」が現れたのは、「神の恵み」によるものであると語ります。その恵みこそが、パウロとともにあり、福音を宣べ伝えさせた原動力です。

さて、次にパウロは復活について、書き進めています。復活の目撃者がいたという事実の記事の後、パウロ自身が福音を宣べ伝えたことを記し、すぐさま死者の復活を取り上げています。これは、パウロがこの手紙を書き送っているコリントの教会の信徒に、最も大切なこととして「キリストの復活」を伝えるにあたって、非常に困難を覚えたことが推測されます。死人が生き返ることなどありえない、だから、復活が虚偽である、という人々がいても不思議ではありません。コリントの教会の信徒だけではなく、現在、キリスト者でも疑問を持つ人がいます。「キリストの復活」が「最も大切なこと」であり、わたし達の信仰の核心です。ですから、今日の聖書箇所の次のところに入りますが、聖書の言葉に聴いてまいります。

コリントの信徒への手紙—15章12節～14節

¹²キリストは死者の中から復活した、と宣べ伝えられているのに、あなたがたの中のある者が、死者の復活などない、と言っているのはどういうわけですか。¹³死者の復活がなければ、キリストも復活しなかったはずですが。¹⁴そして、キリストが復活しなかったのなら、わたしたちの宣教は無駄であるし、あなたがたの信仰も無駄です。

きっと、パウロとしては宇宙に届くような、凄まじい大声をあげ、叫んだのではないかと思われる一節です。聖書を読んでいますと、パウロは、穏やかに話すことが多いように思われますが、この言葉から激しい感情が読み取れます。血相を変えて大声で怒鳴る人でもある、と印象付けられるのは、わたしだけでしょうか？

パウロの気迫から、これくらいの気骨と度胸を与えられていなければ、キリストの復活は、伝えられなかったと実感します。それほど、キリストの復活を信じるか否かが、最も大切なことであり、福音の核心なのです。



現代の科学的理解では、「復活はあり得ない」と言う人々もいます。けれども、わたし達キリスト教を信じる者は、わたし達の理解を超えて「復活はある」と信じています。わたし達は「キリストは復活された」と人々に伝えます。主イエス・キリストが本当に復活されたと信じるからです。

主イエスが復活されなかったら、世界は現在も闇です。天地を創造された神は間違いなく存在されます。「宇宙を創造された大いなるものは存在します」という説は、多くの人間に支持されています。わたし達は、天地の創造主・三位一体の神・イエス・キリストを信じています。

次にパウロは、キリストの復活は、あなた自身の人生に関わることである、と説き始めます。

主イエス・キリストは復活され、その復活はわたし達の死にも及ぶのです。主キリストは、十字架によって、「眠り」=死にます。命をおとされます。そして、キリストは、復活されました。その復活は、主イエス・キリストにとどまる復活ではありません。「キリストは、死者の中から復活し、眠りについて人たちの初穂となりました。」と、パウロは記しています。実に、復活はわたし達のことであります。

わたし達は、キリストの復活にあずかる者とされています。キリストが眠りについて初めての穂となり、わたし達も続く穂となることが約束されています。

パウロは、キリストを宣べ伝える者として、「キリストが復活」しなかったのなら、「宣教」は無駄であり、「信仰」も無駄であるといえます。さらには、復活を否定するなら、神さまに反して、偽の証をしているのだ、と厳しい言葉で断言しています。

なぜこれほどまでに、キリストの復活を最も大切なこととしたのでしょうか。死は、わたし達人間を、恐怖、不安、苦しみに陥れます。滅びは、時間と空間の世界であるこの世を支配しているかのようです。しかしながら、神様はキリストの復活により、死、滅びを超えて神の国を顕されました。神様の愛こそが、キリストの復活を実現し、わたし達人間に復活の命を与えられました。これこそ、パウロがここで宣べ伝えている福音の核心なのです。

わたし達は、聖霊によって、キリストの復活を信じ、わたし達自身の復活を信じ、喜びに生きる者とされています。永遠の命をいただいた者として、毎日を喜びの内に生かされてまいりましょう。

祈り 讃美歌(21) 321 「静かな喜び」

聖書の言葉はすべて以下から引用しています。
 聖書 新共同訳：
 (c) 共同訳聖書実行委員会
 Executive Committee of The Common Bible Translation
 (c) 日本聖書協会
 Japan Bible Society, Tokyo 1987, 1988

新型コロナウイルスへの対応

聖餐式、こどもの教会の礼拝、木曜会は緊急事態宣言が出されている間は休止します。

礼拝出席時の注意

緊急事態宣言が出ている間は、礼拝出席時にマスクを着用して下さい。

マスクの需要が急増し入手が困難となっておりますので、自作の布マスクで構いません。

市販の一般的な花粉(2~4 μ m)に対応したマスクではウイルス(0.02~0.1 μ m)は防げません。

咳などで出る飛沫(5 μ m)拡散には有効ですが、体調が悪い場合には自宅で休んで下さい。

飛沫感染を防ぐために礼拝堂内ではマスクを着用すると共に互いに離れて着席して下さい。

お願い

この様な状況下で働いておられる医療従事者や介護、保育、生活に必要な様々な業務についておられる方を神様が守って下さることを祈って下さい。